

# 松江キャンパス ニュース

The University of  
Shimane Junior College

vol. **4**

地域にあつて  
輝く大学を目指して

公開講座

食と文化 他

授業紹介

前編 後編 他

TOPICS

特集

おはなしレストラン  
(文科省GP)



# おはなしレストラン

## はじまるよ!

### おはなしレストラン、はじまるよ!

おはなしレストラン担当  
総合文化学科 岩田 英作



おはなしレストランで  
読書がスタート

松江キャンパスでは、毎本の読み聞かせを通して、学生の総合的な人間力の育成を推進しています。子どもたちの前で読み聞かせを行うことによりコミュニケーション能力の向上を図ることはもちろん、お読書が読書といった基本的なマナーの理解も心掛けています。

松江キャンパスでの取組は、平成21年度、文部科学省よりすぐれた大学教育推進プログラム(GP)に認定されました。それをきっかけに、読み聞かせの活動をそれまでとは別なものにならないくらい充実させることができました。

科目「読み聞かせの実践」は、それまで総合文化学科の1年生のみを対象とした授業でしたが、平成22年度からは、総合文化学科に加え保育学科・健康栄養学科の学生、つまりは松江キャンパスの1年生全員が受講できる科目となりました。開講時間も半期から通年とし、実務先生の協力の功、乃木小学校に1年を通して行っています。授業の拡大に伴い、担当のスタッフも増員し、教員3名と司書2名で力を合わせて対応しています。



おはなしレストランで読書  
活動がスタート

おはなしレストランで「おはなしシェフ」  
に協力しています



総合文化学科の2年生17名も、卒業研究の一環として、日々読み聞かせの活動に参入しています。乃木小学校に、10人乗りのバン「おはなしレストラン」に乗って、毎週松江小学校にはかかれています。定期的な活動以外にも、学内の方から読み聞かせの要望があれば、2年生が「おはなしシェフ」となって、できるだけ行くようにしています。平成22年も、大田や新大塚など、さまざまな地域で活動しました。



おはなしレストラン、はじまるよ!

読み聞かせに必要な不可欠な資源は、存心といっても稀です。平成21年には、「おはなしレストランライブラリー」を体育館1階に開設し、準備がしだい読本をたくさん揃えました。平成23年4月からは一冊のおやみも貸出を開始します。土・日も開館し、ライブラリーで学生が子どもたちに読み聞かせを行うなど、地域の皆さまとの交流の場となればと願っています。

### 「読み聞かせの実践」を担当して

担当教員 岡本 千佳子

読み聞かせの実践は、実務先生に行く準備を  
おはなしレストランライブラリーから行います



おはなしレストランで読書  
活動がスタート

平成22年度から「読み聞かせの実践」を他のスタッフ4名とともに担当しています。読み聞かせは、たいへん奥深く楽しいものですが、学生達と向き合い、授業をしている時間は、とても楽しく興味深いものです。

この授業で、もっとも印象的だったのは、実務にとりもなる学生達の活性化です。はじめは勇気を持って貸した学生達が、学内での授業が一段落し、実務を経験すると、しだいに意欲的、積極的に読書や練習、実践に取り組みようになり、表情や言葉も豊かに、生き生きとしてくるように思います。



おはなしレストランで読書  
活動がスタート

ですから、授業では学生達が本当に「読みたい」「借りたい」と思える本に出会い、実務を通してたくさんの収穫と課題を見つけれられるよう、後押しを続けることを、大切に考えています。「読み聞かせ」は同時に「読んで聞いてもらう」時間です。一冊の本の楽しさを分かち合い、地域の中で、たがいに育っていける時間をいただいていることに感謝し、授業に参入しています。



おはなしレストランで読書  
活動がスタート

## 名古屋市立幼稚園のそでの実践について

幼稚園のそで



●初めてのときは緊張しました。慣れてくると自然と笑顔もできるようになり、子どもと一緒に絵本を読んだり、聞いたりを楽しむことができるようになりました。この実践を通して、子どもたちもすっかり大好きになったし、いろいろなことが身についたのでよかったです。

●実践に向けて、毎回2人で意見を出し合ったり、お互いを評価しあうことができて、実践を重ねることに、お互いの成長を感じる事ができました。子どもたちが、楽しそうにしている姿や本の世界に入っている様子を見ると、美しい気持ちになり、充実した時間を過ごすことができたなあと感じました。

●子どもにとっておもしろい絵本はなんだろう、つなぎのあそびはなんだろうーと最初は不安やおどしおどしながら実践をしていたけど、回数が増えるにつれて、この絵本のおもしろいところはここだよ、このあそびのしめしよ、というような積極的な取り組みに変わっていったので3ヶ月間でこんなに成長したんだなと自分でも嬉しく思います。



平成22年度前期「読み聞かせの実践」受講生一同  
幼稚園のそでの実践を終了し、おつとび卒業

## 名古屋市立乃木小学校での実践について

乃木小学校で  
子どもとつとびに楽しもうです

●自分の心に書いた絵本を、子ども達に伝えられる経験は本当に充実したものになりました。実践を重ねるにつれて、本当に伝えたいという思いをもって読み聞かせに励むことができるようになりました。

●最初の頃は「絶対おもしろくて、反応がある本を読みたい!」と考えていたけれど、今は「別に反応がなくても絵本の世界に入ってくればいいんだー!」と思えるようになりました。

●自分の心に書いたところを、どうすれば上手く子どもたちに伝えられるか、何度も読み返しました。伝えたいところを意識するだけでその読み聞かせは、何倍も素晴らしいなあと考えて頑張りました。楽しかったです。



乃木小学校でも、授業で実践しました

## 出前シェフで出かけた先方からのご感想



東区立中野で「お」シェフでー

## ●カルチャープラザに多読書室より

今回はおけなしレストランを演出書にお呼びできて本当に楽しかったです。子ども達も若いおねさんおねさんに絵本を読んでもらう機会がなかなかないので、とても楽しそうでした。学生さんも読み聞かせがとても上手く、たくさんのお話を聞いてもらえるのがわかりました。これからもおけなしシェフとして、子どもたちに素敵なおけなしをお届けしてください。

## ●大田市立中央図書館より

おけなし会では、ふだんとは違う「若い」おねさん方の趣向を聞いたお話を、子ども達もとても楽しんでいる様子でした。



大田で「お」シェフでー



公立大学法人  
中道創立大学理事長  
高橋 憲二

あいちTOP

## さらなる飛翔を目指して

松江キャンパスは昭和21年に設立された鳥取県立松江女子専門学校と昭和28年に設立された鳥取県立保健専門学校を母体としている。昭和63年の鳥取県立鳥取女子短期大学（家政科・保育科・文学科）を経て、平成18年の統合法人化により短期大学部松江キャンパスは健康栄養学科、保育学科及び総合文化学科の3学科に改組し、平成22年度まで満4年を繰えようとしている。

松江キャンパスの教育目標は、公立短大として地域の要望に応え、また国際的にも通用しうる人材を育成し、地域の知的文化を継承し、さらなる創造発展を期するとともに、学術研究活動を通じて、地域と国際社会に貢献することにある。

なかでも、地域連携と公開講座の進展には目を向けるものがある。

公開講座「暮の道アカデミー」は、松江市と足利市町から毎年度各3,000人程度の受講者を集めて開催されており研究発表等の情報交流の場として、また地域に定着した生涯学習の場として機能している。松江キャンパスと、周辺の「松江市立海神中学校」「鳥取県立松江商業高校」「松江市立乃木小学校」「松江市立幼保園のぞき」とは、平成18年度に連携協定を結んでおり、相互に「総合的な学習の時間」等の教育に協力する体制で毎年夏の休業を進めている。また、公立大学法人とキャンパス所在地「松江市」「出雲市」「浜田市」は、包括的連携協定を締結している。「文部科学省委託「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業成果報告書（平成22年3月）」に示すとおり、平成19年度から21年度までに松江キャンパスと出雲キャンパスで共同実施した専門職再教育事業では、鳥取健康福祉社、松江市・出雲市・浜田市「子育て支援」関係部、各種民間団体と本学により連携会議を構成し、事業を協力して実施した。また、平成21年には人間力を高める教育実践のために導入した「おはなしレストラン」はじまるよー読み聞かせによる人間力の育成一」が文科省のIPに選定され、3学科共通の科目として多くの学生に履修されている。

法人化後4年間は、新生松江キャンパスの礎を築く年月であった。今後さらなる飛翔を目指して、教職員一同、学生たちと手を携えて歩んでいきたい。

## 「ホームカミングデー」を開催して

松江キャンパス卒業生会「松友会」会長  
来海 公子



卒業生の皆様にも母校を訪ねていただき、懐かしい学生時代にタイムスリップし、母校を今一度身近に感じていただくことを目的として、このたび初めてホームカミングデーを開催しました。記念すべき第一回は、今話題の小泉先生による「再会を演じる」－バーン、水木、ジブリの衣装－と題した講演会を企画したところ、体育館が埋まり見とれず山の方々にご参加いただきました。会場は松友会前会長の遠藤幸子先生を囲んで談笑するグループや、手を取り合って再会を懐かしむ人草と同窓会ムード一色に染まりました。

小泉先生の講演はとて好評で、感動した等の感想を山山と寄せいただきました。今後も是非開催してほしいとの声にこたえてぜひ「参加して本誌によかった」と実感していただけるような内容で継続したいと考えております。松友会はこれからも大学と協働して、学生のみなさまに寄り添いながら石松の継承、刷新、そして未来へと繋げてまいりたいと思います。変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 「食品加工学」

健康栄養学科 准教授 赤瀬 和之

「食品加工学」は、食品の製造や加工に関する原理と応用について学びます。この科目では講義だけではなく実習も行います。実習では、高級卵料理の成形が平をあらわす練にしたり平し練にしたりのして、その利用法を体験します。カキには、甘柿と渋柿があるのですが、実は甘柿は甘くて渋くないの中で、渋柿は甘くて渋いの中であることもこの実習で体験します。製造していない渋柿を会員が試飲して、カキの渋柿とはどんなものであるかを実感してもらいます。カキをかき粉にしたとき、一瞬甘さを感じることで、実際に渋柿が口の中全部に広がることを感じることで、渋柿および渋柿は甘くて渋いカキであることを理解します。特製の乾燥装置で作った干し柿と、ドライアイス装置で作ったあむ甘柿は試合して、一週間程度経過が完了することを確認します。また、カキのタンニンプリントも行い、脱渋による可溶性タンニンの濃し(減少)も確認します。このほか、実習ではマヨネーズやバター製造も行います。身近な食品を実際に行うことにより、脱渋や乳化などの原理を楽しく、また楽しく(乳には驚しい)理解が必要なのです。学ぶことができた、との評価を得ています。

## 「児童文化(ほいくまつり)」

保育学科 講師 福井 一尊

保育学科を卒業していく学生達に、学生生活で何が最も印象的であったかと尋ねると、多くの卒業生が「2年間で2回経験した、ほいくまつりである」と答えてくれます。この「ほいくまつり」の取り組みは「児童文化」という授業の一環として、保育学科1-2年生全員で行います。平成21年度で37年目を迎えた伝統行事であり、毎年6月下旬の海浜市民会館大ホールに1,500人の子ども達とその保護者を招待して開催します。学生が日清学内で学んでいることを総合表現として舞台上で発表するものです。共に話し合い、考えながら作り上げていく過程の中で協力することの大切さを学び、感情を磨いていくとともに、保育というものが要求する厳しさも知ることができます。「ほいくまつり」の本番当日、学生達は最高の感動を体験しますが、取り組み過程そのものが学生達に大きな成長と自信を与えてくれています。



## 「創作ゼミ」って、どんなところ?

健康文化学科2年 安部 留里



ター表(上巧め)でも販売されます。また、批評を行い、お互いに切磋琢磨しています。無敵はゼミの中だけで行いますが、地元で創作活動をされている学外の方を招いての合評会も行います。

創作会を出すのが目的とはいえず、完成した創作会を選んでもらえる、嬉しいです。創作会を見かけたら、読んでいただければ幸いです。

最後に創作ゼミを目指すという方へ、自分の書いた作品が人目に触れる過程を見るのは、このゼミの醍醐味だと思います。とことんまで、創作に没頭して欲しいです。そのためにも、今さらでも小説や詩を、読んで早く人に読んで欲しいと思います。

趣は小説や詩を書く方がいっしょにやると思います。その方にとって、このゼミは魅力的だと思います。卒業プロジェクトの一つ、創作ゼミは自分たちの書いた小説、詩の創作会を年二回出しています。変わっているところは、創作会を二回出すことが、卒業論文の代わりにです。ただ、締め切りが存在するので、それに追われながら、日曜ワードと闘っています。

そんな創作ゼミは、学費特別に出版決定準備の取材を受け、新聞で紹介されます。完成した創作集は図書館で販売され、同時に今井書店セン

# 公開講座

## 「総合文化講座：文化の新たなる視座」

総合文化学科 准教授 松浦 健二

人間が創りだしてきた様々な文化は、人間の生活に、心に、うるおいとゆとりを与えてきました。また、「ことば」をくちくちして、人間が現在の文化を築くことばせました。2010年度の「総合文化講座：文化の新たなる視座」は、そのような人間文化の歩みと、ことば「ヒト・モノ」の二つをキーワードとして考えていこうとするものでした。

10月の開講日に「ことばの文化」と「ヒト・モノの文化」について、それぞれ20分の講義を連続して行うという形式をとったので、会場18人の聴衆の約2/3の聴衆がテーマをおつかい。人間文化を多角的に眺め上げらるというアプローチも、会場が抱めての喜びでした。これから総合文化学科の特色を充分に生かした講義を企画していきたいと考えています。

## 「食と文化」

総合文化学科 文芸部 講師 有紀子

公開講座「食と文化」は、地域で食文化を支えるさまざまな分野の専門家を講師としてお招きし、開催しています。講座で語られた「食と文化」についての情報は、貴重な教育資源として残すために、健康栄養学科の学生が有志でこし一校に開かれ、「公開講座報告員」として発信しています。本年度は、元健康栄養実践センター的内的研究の拠点として、健康栄養実践センター専門研究員の松浦友美さんを学外講師としてお招きし、さらに健康栄養学科の中核施設を授業を学内講師として、「出番千ばの味わい」「食の道」「食の道」の3講座を開催しました。受講者の方からは、「食の道について改めて知る機、機会と楽しさ」「それぞれが興味深い内容だった」など内容や今後の企画に期待する声を多く頂きました。「食と文化」講師は、平成23年度も引き続き開催し、「食の夜文化」をテーマにした講座を企画する予定です。



## 「早期発達支援ブラッシュアップ講座」

健康学部 准助 山下 由紀恵

この講座は、平成22年度までの4年、「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業等を通して、発達支援に関心をもられた専門職向けに、さらに「発達発達心理学」を専門的に学ぶための講座として開催しました。松江市子育て課と連携して、松江市内に案内しているため、保育士や幼稚園教諭などの専門資格・免許を持った方が多く、平成22年度は毎回30名前後の受講者でしたが、実際の子ども支援を考えながら、熱心に参加していただきました。第1回は国保院からの発達アセスメントに、第2回は個別の支援プログラムに焦点を当ててお話ししました。第3回は学級担任での特別支援教育に結びつく年間からの支援についてお話ししました。平成22年度で「学び直し」後のブラッシュアップ講座としての役割はほぼ終わりましたので、今度は今まで出会った専門職の皆さんとの繋がりを生かして、さらに現場に近いところで研修を実施していきたいと考えています。

## 大学祭

学生自治会 高橋 陽吾 (前山文化学科1年)



第50回有馬財団実行委員長の高橋陽吾です。昨年はインフルエンザの被害で、前日の中止決定になってしまいましたが、今年は無事開催することができ、ホッとしています。

準備は夏休み前から当日まで毎日遅くまでやってきました。昨年の引を譲りもなく、手取りでの作業の中、どうしたら良いか他に知る字彙集にできるが、学生会の前で必要にやってきました。当日、ビンゴゲーム、トークショー、模擬店があり、学生の面が楽しんでいるのを見て、暑くなって来て良かったと心から思いました。一般からの来場者も多く、学生同様に楽しんでもらえた事は頑張って来た学生会メンバーにとって最高のご褒美になりました。2日目は昼から軽音楽部の皆さんが体育館でライブをし、後夜祭もサポートしてくれました。特に、後夜祭は大盛り上がりでした。2日間は来てみると、本当にあっという間で、みんなが楽しい気持ちになりました。第50回有馬財団は大成功だったと思います。来年は一年生にしっかりと引き継ぎ、サポートをし、今年以上の有馬祭をしてもらいたいと思います。

## 海外語学研修

前山文化学科1年 長谷 香理

2010年8月7日から2週間、ワシントン州エレンズバーグにあるセントラル・ワシントン大学に行ってきました。アメリカでの生活は、午前中は授業を受け、午後はマリナース競馬や乗馬などの様々な運動を体験し、毎日とても充実していました。特に授業は、Patric先生のおかげでいつも笑いが絶えず、リラックスした雰囲気の中で学べることなく思い切って自分の意見を英語で発表することができました。また、1泊2日のホームステイでは、ホストファミリーが私たちを家族の一員として迎え入れてくださり、米国の家庭の温かさに触れることもできました。

自分の思っていることを上手く伝えられなくてばかり悩んでいたこともありましたが、この研修を通して、自己の成長と自信につながる貴重な体験が得られたと思います。



## バスケットボール部 「島根レイカーズ」

男女バスケットボール部部長 松田 隼  
(前山文化学科2年)

こんにちは。男女バスケットボール部部長の松田隼です。今回は男子特撮です！

現在、男子部員は10人で活動しています。主な活動は毎週月曜と木曜のサークルと、他学校や社会人のチームとの試合です。今年はユニフォームも作り、試合がもっと盛り上がり上がっています。

部員の中には、大学に入ってバスケットを始めたい人もいますが、見ていて驚くほど上達し、楽しんでいてとてもうれしんです。先輩後輩の仲も良く、普段から楽しくプレーしています。この季節、バスケットのシーズンでもあるので、頑張りたいと思います。

また、島根スガノマジックの活躍によって、県内のバスケットボールがさらに盛り上がりしている時期なので、それに負けずと、「島根レイカーズ」も、特に学生を元気づけるような活動をしていきたいと思っています。他学校との交流も深めていきたいので、練習試合など、よろしくお願ひします。



## SCHEDULE

※このスケジュールは予定です

※学生定数の変動等もあり必ず事前に確認ください



## CAMPUS TOPICS

トピックス・・・  
キャンパス内外で  
起こったニュース  
をお伝えします!!

### 学生表彰

#### 収穫の感動を作品に

島根立大学2年 牛中 美那子

この度、タチカワプラインド生地の画11個(ブラインドカラーコーディネートコンテスト)で入賞しました。このコンテストは、自分にとって忘れられない出来事、身のまわりの起きた感動の瞬間や、世界を隔りさせた社会的な出来事など、さまざまな2009年を103色のスラットカラーで表現するもので、母親と母親した大層をテーマにしてみました。小さな頃から大きく大きく育ったことに感動し、それをどうブラインドに表現できるか悩んで作り上げた作品だったので、賞をいただけるのは本当にうれしかったです。普段にも楽しんでもらえたので本当に良かったです。



#### 多くのひとに支えられて

島根立大学2年 川瀬 優

平成21年7月5日、社団法人全国体育教育指導員総連支部主催のもとで開催された第18回選手権大会で、団体総合高校一般の部優勝、個人の部準優勝を達成しました。自分の特技としている球技で、学長賞という素晴らしい賞をいただくことができ、とても嬉しく思います。ありがとうございます。この賞をいただけるのも、自分一人の力ではなく、たくさんの人からの支えがあったからです。これからも、関わってきた方々へ感謝しながら、生活していきたいと思っています。

### 学生図書委員会誕生

松江キャンパス図書館 広報委員 北井 由香

平成22年5月に学生図書委員長が15名(1年生7名・2年生8名)誕生しました。学生と図書館とのパイプ役となり、図書館本来の学習・研究支援のための機能、また多様化する学生のニーズに対応する機能を整備することを目的とし、活動を行っています。スローガンは、やはり「図書館に人を引です。どのようにしたら、図書館に人を寄せることができるのかを考え、色々な企画を実施しました。



現在までの主な活動は、図書館利用アンケートの実施、講演、研修会への参加、展示、大学祭への参加、読書マラソン企画、図書館新館の作成、浜田キャンパス学生図書委員との交流会等です。特に読書マラソン企画は、賞品効果もあり、各学科から多くの学生に参加してもらいました。

今後も学生図書委員会活動が図書館の利用増進につながることを期待しています。それと同時に図書館が学生図書委員たちにとって楽しんで活動を行える場であり続けたいと思っています。

### 島根県立大学短期大学部

「松江キャンパスニュース」も第4号になりますが、無事に発行することができ、正副ホックとしていれるところまで。松江キャンパスの様々な活動の情報がわかるように編集中心ができましたが、いかがでしたでしょうか。編集委員会でも活発に意見が交わされ、編集までご意見をいただいたおかげで、よりよいものになったように思います。最後になりましたが、記事や写真を提供してくださった方々やご協力くださいました方々にも心より感謝申し上げます。(KLS&YK)

## 島根県立大学短期大学部 松江キャンパス

〒690-0044 島根県松江市浜野5-7-7 022-4422号  
TEL: 0852-21-6055分5 FAX: 0852-21-18150  
■校 行：島根県立大学短期大学部松江キャンパス  
メディア・図書館委員会  
■発行日：2011年3月17日

◎島根県立大学 保健学系 健康 福祉 1号